

# 総務文教常任委員会記録

【所管事務調査】

令和2年5月28日

【開催日】 令和2年5月28日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後2時50分

【出席委員】

委員長	河野 朋子	副委員長	伊場 勇
委員	奥 良 秀	委員	笹木 慶之
委員	中岡 英二	委員	長谷川 知司
委員	山田 伸幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野 泰	副議長	矢田 松夫
----	------	-----	-------

【執行部出席者】

教育長	長谷川 裕	教育部長	岡原 一恵
教育次長兼教育総務課長	吉岡 忠司	学校給食センター所長	山本 修一
学校給食センター主査	和田 英樹		

【事務局出席者】

事務局長	尾山 邦彦	議事係長	中村 潤之介
------	-------	------	--------

【審査内容】

1 学校給食センターへ納入される青果物について

【会議の概要】

- ・芽を除去して給食センターに納入されようとしていた古いジャガイモがあるとの報告を5月25日に委員から受けた。状況を確認するため急きよ委員会を開催することとなった。
- ・会議に先立って、岡原教育部長から4月1日付け人事異動による異動の挨拶を受けた。
- ・山本学校給食センター所長から、その日に使う青果物全体の価格によって納入業者を決定している。納入業者の説明は、見積り時より仕入れ時が高値で

あったため、見積り時の金額に合うメイクインを購入したとのことであった。実際に見たところ古く、芽が出ているものもあった。これでは学校給食センターの食材としては使えないため、再度、数をそろえて納入するよう指示した。本日が、そのメイクインを使う日で、長崎産の新しいメイクインになっており、無事調理を終えた、との説明があった。

### 【主な質疑】

山田伸幸委員 25日に私たちが立ち会って、センターにも業者にも来てもらいチェックをしたが、もしそれがなかったら、本日は古いジャガイモが納入されていたのではないか。事前に学校給食センターで納入物のチェック等はされているのか。そのまま納品されてそれが使えないと分かっていたらどうするのか。青果物の見極めをできる体制になっているのか。

山本学校給食センター所長 学校給食センターでは、その日に調理で使う食材は、その当日納品していただくようにしている。当日の検査は当然するが、学校給食センターが事前にそれを検査していない。当日入ったものは、調理員、学校栄養教諭、学校栄養職員等で検収している。使えなくなってしまったときには、同様のものをすぐにそろえるようお願いするが、全量そろわないときは、そろった分で献立を立てる、若しくはその青果物抜きの献立にすることになろうと思う。

山田伸幸委員 相手の業者は、芽をのけているから問題ないような発言をされている。芽を取っているものでも納品を受けたか。

山本学校給食センター所長 万が一持ってこられたとしても、学校給食センターの検収で扱わないと判断したと思う。

山田伸幸委員 最悪の場合、ジャガイモのそばろ煮がジャガイモ抜きになるのか。

山本学校給食センター所長 ジャガイモに代わる野菜が何かを見極めて業者に持って来てもらおう、若しくはただのそばろ煮になってしまっていたと思う。その際は、各学校に献立の変更があると連絡し、保護者の皆様にも御連絡することになっていたと思う。

山田伸幸委員 過去に同様な例があったか。

山本学校給食センター所長 ささがきゴボウを使う際にカット野菜を注文したことがあったが、ゴボウから異臭がしたため使わずに処分した。そのときは、ゴボウ抜きの汁物になった。

中岡英二委員 現実には、すぐ代替できるのか。

山本学校給食センター所長 納入業者に依頼するが、対応できない場合は、その食材を使った献立ができなくなる。

中岡英二委員 見積書において、商品の産地はどこで指定したか。

山本学校給食センター所長 5月分のジャガイモについては、国内産で指定していた。

中岡英二委員 そうであれば、北海道産のメイクインが入ってもペナルティーにはならないということか。

山本学校給食センター所長 そうなる。通常、この時期に北海道産の古いものが入らないという認識でいたが、仕様書に新しいジャガイモを使うようにという表記が必要だったかもしれない。また、昨日、再度、業者を呼んで経緯を確認した。納入に際しては、価格ではなくて安全性を第一に考えるよう厳しく指導・指示した。

中岡英二委員 指導だけでいいのか。今後、ペナルティー、厳しいチェック、罰則も考えていただきたい。

山本学校給食センター所長 仮に、今回のジャガイモを使って児童生徒に食中毒が発生したとしたら、当然、取引の停止、登録の停止になろうかと思う。特段罰則を定めていないが、今後検討したいと思う。

山田伸幸委員 先ほど国内産で仕様を出して入札に掛けたと言われたが、納入されている業者は、鹿児島産で見積りを作られたんじゃないか。そして、その値段は240円となっていないか。

山本学校給食センター所長 5月のメイクインについては、鹿児島ほかということで見積りを頂いている。値段については、そのとおりである。

山田伸幸委員 ということは、もう北海道産は論外って御存じの業者なんじゃないのか。わざわざそこに鹿児島って書いているということは、やっぱり九州のものを入れるしかないということ承知の上で北海道産を入られたんじゃないか。あのときも、値段が合わないからと大きな声で言

われたが、青果物を扱う業者なら、この時期に北海道産が入らないのはもう常識だと思う。もし、それが分かっていない業者なら、そもそも入札の資格がないと思うが。

山本学校給食センター所長 なぜ北海道産を入れようとされたのかは分からないが、今日持ってこられたメイクインは長崎産である。当然、この時期に九州産のものを使うというのは御承知の下とは思っている。

山田伸幸委員 栄養教諭の皆さんに、今回のことをどのように話をされたか。

山本学校給食センター所長 先日、撮った写真を見せた。検収の際にこのような商品が来るかもしれないので注意するようにと指示した。

山田伸幸委員 ジャガイモの発芽部分の毒が、大体どれぐらい体内に入ったら微量でも中毒を起こすのか、そういったこともしっかりと把握した上で、この問題がどうだったのかを考え直していただきたい。

山本学校給食センター所長 毒素性については十分承知している。今回は、幸いにも事前に分かったが、このような商品も納入されることがあると承知して検収をするように指示した。

河野朋子委員長 それはあるべき姿か。それ以前に、学校給食センターはきちんとしたものが入ってくるのが前提であるべきだと思う。不良品が入ってくるかもしれないから気を付けなさいという指導はおかしい。

岡原教育部長 言われたとおり、安全なもの、品質のよいものを入れるのが大前提であるので、検品する職員はそういった立場にあってあらゆる食品に対してものを見る目、確かな目を持つことが非常に大切になってくると思う。この機会を捉えて、再度注意深く食品を扱うように気を引き締めたい。

河野朋子委員長 自校方式のときには、ちょっと傷んだものがあつたときにはすぐ取り替えてというのがあつたことは承知している。学校給食センターになってから、そういった面での食材の調達に対してすごく危惧していたが、不適切なものが入つたときに、学校給食センターでチェックしないといけない体制というのはどうなのか。それ以前に、きちんとチェック体制がないといけないのではないか。

山本学校給食センター所長 ちょっと思い付かない。

山田伸幸委員　それが今回全く機能しなかったわけである。業者は、芽を取れば大丈夫みたいな甘い考えでいて、当日大丈夫ならよかったし、駄目なら申し訳ないで済まそうとぐらいに考えていたんじゃないか。25日に業者の方から反省の言葉も何も聞かれなかったし、逆にこれじゃいけないんですかねという言葉まであった。これは業者としてあるべき姿じゃない。今後気を付けるで済む話ではないと思う。

岡原教育部長　この度の業者の姿勢というか納入に対する考え方というものは非常に甘いものがあったと思う。罰則等で片が付くとようなものではないかもしれないが、発生の前の抑止策として細かい罰則を定めるのも一つかもしれない。

長谷川知司委員　まずは、業者任せでなくて、学校給食センターで責任持ってチェックする姿勢が要る。誰が最終責任を持ってチェックし、そのためのチェックマニュアルがあるのか。前日納入できるように保管庫を持っておけばいいんじゃないか。

山本学校給食センター所長　当日の検収は、学校栄養教諭、調理員などがマニュアルに従って実施している。その検収の結果については、所長に責任があると思っている。前日の納品については、国の定める衛生管理マニュアルには、当日使うものは当日納品するとあるので、それに従って行っている。

長谷川知司委員　それは原則で、仮納品ということで、今、市場で保管しているでしょ。学校給食センターに保管庫や冷蔵庫があれば、当日焦ることもないと思うが。

山本学校給食センター所長　学校給食センターに冷蔵庫があるが、当日入るものを全部収めるような設備がない。

河野朋子委員長　今回、それが問題なのか。結局、当日に新鮮なものがきちんと納入できればよかったわけで、ほとんど全量が不良品になりそうだったことが問題である。私が言ったのは、学校給食センターは最終的にチェックする責任があるが、それはある程度きちんとしたものが入ってきているという前提があつてのもので、全品がとんでもないものが入ってきたときに、センターがそれを全部かぶるようになっているのがおかし

いので、どこか変える必要があるんじゃないかと言っている。業者にもうちょっと厳しくする、意識をしっかりと持ってもらうための仕様書になっていない。今後考えていくつもりがあるのか。

岡原教育部長 他の市町で規定を持っているところがある。参考にしながら研究していきたい。全く何もないという状況は、好ましくないと考える。

奥良秀委員 地産地消の話で、献立を作られる際に、山口県ではこの時期にはこの野菜ができているという認識はあるのか。

山本学校給食センター所長 当然見積り依頼を作成するときは、栄養士から県産のものを使いたいという指示に基づいて作っている。

奥良秀委員 献立を立てる際に、山口県でこの時期には何ができているよ、だから、こういう材料をほぼ絶対入れましょうね、と。パーセンテージも、年間の地産地消のパーセンテージをあらかじめセットして、そこをクリアできるようにやっていこうというのが、やはり地産地消を学校給食センターから盛り上げていく流れになると思うが。

山本学校給食センター所長 見積りを作る際に、例えばニンジン、今月は県産でそろうかとか国内産じゃないと無理だとか、一品一品照会をし、それに基づいて見積りを作っている。

奥良秀委員 その照会があった中でも、今回のジャガイモが、鹿児島かどっかって書いてあったのにもかかわらず違うところが入ってきていたのでは。だから、そういうところもきちんとしていかないと駄目だと言っている。結局、チェックというか口頭で言っても入ってこなかったのでは。

山本学校給食センター所長 納入前の状況は北海道産だったということである。仕様書では鹿児島産だが、実際倉庫にあったものは北海道産であった。

奥良秀委員 だからその辺をやはりもう少し口を酸っぱく、やはり国内産みたいな幅が広いものではなくて県産品でできるものをどんどん使ってほしいと思う。多少値段が高くて、献立を立てるときには山口県ではこういったものが今できていて、だからこういう献立作りましょうねっていうことを、学校給食センターでもっとしてほしい。

河野朋子委員長 ちょっと今論点が少しズレてきて、地産地消というところで県内産を増やしていきたいっていうのは少し提言であったので、そちら

はお願いしたい。そして、今回の商品の取扱いについての産地が違っていたことについては、鹿児島って仕様書に書いていながら現物は北海道産だったということだが、こういうことはいつ明らかになるのか。

山本学校給食センター所長 学校給食センターに納入するときである。

河野朋子委員長 そのときに明らかになって、例えば違ってもそれはいいですよという許容範囲なのか、これは事前にちゃんと了解が要るものですよといった取決めがないのでは。

山本学校給食センター所長 以前も、メーカーで指定しておきながら、男爵であったというのが問題になったが、当然、指定したのから変わるときは、事前に学校給食センターに報告してもらうのが約束である。

河野朋子委員長 今回、事前に、北海道産にするという連絡があったのか。

山本学校給食センター所長 なかった。

河野朋子委員長 そこが問題なんじゃないのか。そういったことをきちんとしていかないと大きなトラブルにつながりかねない。その辺の細かいことをもう少し丁寧に行っていたほうがいいと思うが。

山本学校給食センター所長 御指摘のとおりできていないところがあった。改めて、実施してまいりたい。

山田伸幸委員 今日の委員会を受けて、これがガス抜きで終わりはしないかとい心配している。この問題への対処は所長が業者を呼んで注意をする。これで終わりか。

岡原教育部長 繰り返しになるが、詳細な罰則規定を持っていないので、教育委員会としてペナルティーを科すことはできないが嚴重注意をしており、子供たちの安全が脅かされたという認識は十分持っているので、抑止を図るためにも、詳細な罰則規定を定められるように研究をしていきたい。時間を置かずに定められるようしたい。

山田伸幸委員 ということは、今回の業者は引き続き入札に参加し続けるということか。

山本学校給食センター所長 そのとおりである。

中岡英二委員 罰則規定も大事と思うが、仕様書は早急にやり変えたほうがいい。栄養士が産地の指定が分かるのなら、特記仕様書の中で産地を明記

してほしい。まずは仕様書、その後に罰則規定。とにかく仕様書変えることを約束していただきたい。

山本学校給食センター所長 早速、来月分から改善したい。

伊場勇副委員長 この事案が発覚して、大きな問題にはならなかったが、青果物は種を植えて苗を植えて、そこから子供の口に入るまでは安心安全じゃないや絶対駄目である。そうじゃないことが起こっているとしっかり認識してほしい。過去に給食については、2回連合審査をしているが、しっかりとチェック体制、マニュアル等を検討していくっていう答弁があったが、何か新しい取組をしたか。

山本学校給食センター所長 チェックの体制は同じだが、市場と青果の品質とか産地といった情報共有は進めたところである。市場からこの時期にはこういったものがどこで取れるといった情報を頂いていた。

伊場勇副委員長 給食用に入る食材に対して念入りに何かチェックをするとか、市場にもものが入った時点で、場長が悪いものは返品するとか不良品をどういうふうに使うとか、そういった管理をするようなこともおっしゃっていたが、特に改善をされてないのか。新しいチェック体制を構築すとか、二重三重のチェックを入れるとかはしていないのか。

山本学校給食センター所長 チェック体制は特段変更していない。

伊場勇副委員長 何も変わっていないから現状の事案が起きたようにも思う。

もっと協議できるか。新しいものを作れるか。

岡原教育部長 今、そのようなシステムは全くない状態である。検討させていただきたい。

伊場勇副委員長 1年前も同じような回答だったが、話し合いをしたのか、協議をしたのか。

山本学校給食センター所長 当然、市場も、センターがどういったものが欲しいかを承知していただいている。納入業者がそれに合ったものを入れているかどうか当然チェックしていただいている。それに反したものを入れようとしているならば私どもに情報も入るし、市場からも納入業者に指示やアドバイスができるようになったのは確かである。

山田伸幸委員 それは、うそじゃないか。あのとき、場長もおられたが、事前

に納入物のチェックをしていなかった。今の話だったら、場長が先に見付けて「これは問題だ」って言うべきところだが、場長は何もそういうことを御存じなく、見てびっくりしているというのが実情だった。

山本学校給食センター所長 すいません、言葉足らずで、市場は、納品物のチェックをしていないということである。ただし、給食センターの仕様と異なったものが納入されるようなことがあれば、情報提供があったということである。

中岡英二委員 小野田中央青果がない中、業者は、当然、よその市場なり業者から仕入れてくる。そうした中で、やはり皆さん、学校給食センター、教育委員会が主導権を持って、自ら勉強して、今の時期だったらこういうものがあるぐらいのことは、栄養士が勉強されてもいいんじゃないか。もっと主体性を持ってしないと。

山本学校給食センター所長 現在、足りないところがあると思う。勉強していく。

河野朋子委員長 今後必要なことは、罰則規定を明文化するということと、業者に物品をそろえてもらったときに、こちらから違いうよってというようなチェックができるような細かい仕様書に変えることと思う。

岡原教育部長 早急に取り組んでまいりたい。

河野朋子委員長 そろい次第、また委員会に報告していただく。

令和2年（2020年）5月28日

総務文教常任委員長 河野朋子